



加彩騎馬女陶俑 幅 18・奥行 6.5・高さ 22cm

## 松本郁美展 西方見聞録

2022年9月24日(土)～10月2日(日) 会期中無休

GALLERY  
うつわノート

料金後納  
ゆうメール



ペルシャ人物文鳥首水注 高さ26・胴径14cm



人文播落六角茶壺 高さ11・胴径8cm



播落六角茶壺 高さ11・胴径8cm



灰釉色絵茶壺 高さ8・胴径7.5cm

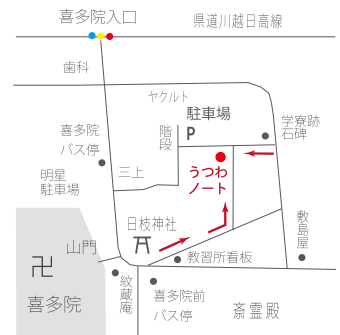
## 松本郁美展 西方見聞録

2022年9月24日(土)～10月2日(日) 会期中無休  
作家在廊日 9月24日・25日  
営業時間 11:00～18:00 最終日は17時迄  
ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
049-298-8715 utsuwanote@gmail.com

1978年 静岡県生まれ  
2001年 成安造形大学環境デザイン科卒業  
2009年 京都府立陶工高等技術専門学校卒業  
2012年 京都市産業技術研究所袖染実務修了  
2017年 景德鎮陶器大学にてレジデンス  
2018年 滋賀県甲賀市に築窯  
2022年 現在同地にて制作

胸に手を当て遠くを見つめる馬に跨る女性。何を思い、どこへ向かおうとしているのでしょうか。詩情溢れる異国の風景が浮かびます。唐代の美女と思しき顔立ちの騎馬陶俑。滋賀県甲賀市の松本郁美さんによるものです。中国の古い陶磁器、それも掻き落とした鉄絵で知られる宋代の磁州窯に憧れると聞きました。同時代の峻厳とした定窯に比べて、民窯らしい柔らかな作風は、なるほど松本さんの器に繋がるのだと納得します。見ての通り中国を始めとする異国情緒のある絵柄に、柔らかな白が特徴的です。しかし忠実に中国の古典を追うのではなく、中国からペルシャまでのオリエンタリズム、阿蘭陀のデルフトや南仏の民陶、東洋趣味のシノワズリも織り交ぜ、松本さんが現代の暮らしに合わせて昇華させた独自の世界です。日頃「かわいい」との評価も多い中、弊店ではやや渋めの作風に絞ってご覧頂こうと思います。日本から中国、ペルシャ、欧州へとシルクロードを辿るように西方に向かって時代と様式が混在する今、馬上の彼女は、これからみつめる松本さんの自刻像にも思えてくるのです。

店主



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分  
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分  
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]  
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]  
車：ギャラリー専用駐車場3台分有